

# 離島創生プランの事例集

- 平成30年3月離島振興課調べ -

取組項目	取組内容	場所	島名	ページ番号
島たび・島めぐりによる「島業」の確立	島の食材を用いたレストランによる活性化	佐賀県唐津市	松島	1
	ジオサイトを活用した環境ツーリズム	鹿児島県薩摩川内市	甕島	2
島たび・島めぐりコンシェルジュ	漁村生活を資源とした体験型観光の推進	三重県鳥羽市	答志島	3
外国人活用	外国人による海外旅行客誘致	島根県西ノ島町	西ノ島	4
ホビーツーリズム	サバイバルゲームの取組	東京都新島村	新島	5
島と大学の連携	域学連携地域づくり	長崎県対馬市	対馬島	6
	アイランドキャンパスの推進	鹿児島県離島地域		7
親子・子ども向け島の生活体験	子育て体験ツアー	島根県海士町	中之島	8
	島の自然を生かした体験型修学旅行	広島県大崎上島町	大崎上島	9
離島留学	粟島しおかぜ留学	新潟県粟島浦村	粟島	10
	十島村山海留学	鹿児島県十島村		11
働き方改革	サテライトオフィス/テレワークセンターの活用	島根県隠岐の島町	島後	12
	サテライトオフィス/テレワークセンターの活用	長崎県壱岐市	壱岐島	13

# 「島たび・島めぐり」の展開による「島業」の確立の取組例

島の食材を用いたレストランによる活性化：佐賀県唐津市松島（人口：56人）

## 取組

島で採れる特産品のサザエ、ウニ、オリーブ等を用いた料理を提供する一日限定イタリアンレストラン「リストランテマツシマ」を開催

シェフやテーブルサーブも同島の出身者。平成28年度は3回開催し、参加者は1回20名程

レストランの食事代を高価格帯に設定し、富裕層等にターゲット絞り、テレビ・新聞・雑誌等のメディアへの積極的な広報

島民による商品販売「マツシマルシェ」や島内散策ツアー等も同時開催

## 効果

一日限定イタリアンレストラン「リストランテマツシマ」の開催を通じて、利用者のニーズや島側の受入体制を把握し、数回のモニタリングを経て、常設の予約制レストランの開店を実現

松島出身の若者が今回の事業をきっかけにUターン（3名）

テレビ放送で特集番組が組まれたり、著名人が訪れ、SNSに掲載したことにより、認知度が向上

シェフ考案の新しい特産物加工品を販売



海沿いで開催した様子



スタッフの島出身の若者



「マツシマルシェ」の様子

(出典) からつ七つの島活性化協議会

# 「島たび・島めぐり」の展開による「島業」の確立の取組例

さつ ま せん だい し こ し き

## ジオサイトを活用した環境ツーリズム：鹿児島県薩摩川内市甕島（人口：4,719人）

### 取組

甕島ツーリズムビジョンに基づき、環境ガイド（インタープリター）養成、甕島で約20箇所を超えるジオサイト資源調査を実施するほか、地質・人文地理・地形・生態・生物など各分野の専門家と現地調査を実施

インタープリター養成講座では、実際に自然に触れることを目的とし、座学だけでなく現地で学ぶことを中心に養成を実施

### 効果

これからの甕島のエコツアー推進の鍵となる人材のインタープリター22名を養成

甕島の成り立ちに関わる地質、地形等についてわかりやすく観光客等へ説明し甕島の魅力を発信。

【H29年度：モニターツアー実施実績】  
参加者 約30名

島の自然を活用した体験型観光プランを検討中



講師による講義の様子  
(インタープリター育成講座)



モニターツアー実施の様子  
(インタープリター育成講座)



現地調査の様子  
(ジオサイト資源調査)

(出典) 薩摩川内市

# 島たび・島めぐりコンシェルジュの取組例

とぼしとうし

## 漁村生活を資源とした体験型観光の推進：三重県鳥羽市答志島（人口：1,975人）

### 取組

I ターンの漁師のおかみさんが、島の生活に価値を見出し島の日常を観光商品化

海女小屋で囲炉裏を囲んで魚介類を楽しみ、漁期以外には海女さんによる海女漁話も聞ける「海女小屋体験」や、島の路地を島のお母さん達がガイドをする「路地裏つまみ食い体験」等の観光プログラムを提供

教育旅行等を対象とした、漁業体験等の体験プログラムを提供

協議会において旅のプロデュースや体験メニューの提供を実施

### 効果

普段の食事や習慣、生活路の散策、仕事等の「島の暮らし」を見せる・体験させることにより利益を創出

教育旅行等の団体向けに漁業体験等の体験プログラムを提供することより旅館・民宿への経済効果を創出

【H28年度ツアー実施実績】  
ツアー実施本数：138本  
受入れ人数：1,583人



海女小屋の様子  
(出典) 島の旅社推進協議会



路地裏つまみ食い体験の様子  
(出典) 島の旅社推進協議会

# 外国人のネットワークを活用した島の魅力発信の取組例

にし の しまちよう

## 外国人による海外旅行客誘致：島根県西ノ島町西ノ島（人口：3,027人）

### 取組

JETプログラムにより、島根県に来島したニュージーランド出身の国際交流員を観光協会職員として採用し、以下のようなインバウンド対策を実施

- ・観光協会ホームページの英語への対応
- ・英語版のガイドブック、街歩きマップ、飲食店メニュー等の作成
- ・外国人旅行会社との連携（下見サポート、ツアー企画支援、等）
- ・知人等を活用した海外の学校の教育旅行誘致
- ・海外メディアに対する情報投げ込み
- ・島内業者への海外観光客に対するおもてなし研修の実施

### 効果

西ノ島町への外国人観光客数が3倍に増加  
H25年：154人 → H28年：466人

海外ツアー会社による隠岐ツアーの実施

メディア等の掲載実績

- ・ロンリープラネット（ブック・オンライン）
- ・ブルーガイド（隠岐は三ツ星の観光地として紹介）（ブック・オンライン）
- ・ミシュラングリーンガイド山陰WEB版
- ・ズームジャパン（英語、フランス語、イタリア語版）（ブック・オンライン） などその他多数

アッパーハート高校（ニュージーランド）が教育旅行のため来島（H26、H28）



観光協会職員によるガイドの様子  
（出典）西ノ島町観光協会



アッパーハート高校来島 教育旅行  
（出典）西ノ島町観光協会

# ホビーツーリズムの取組例

## サバイバルゲームの取組：東京都新島村新島（人口：2,230人）

### 取組

NPO法人が、新島の特産品である抗火石の採石場跡地を利用し、非日常的なロケーションの広大なフィールドを利用してサバイバルゲームを実施（注）

「新島リゾートサバゲー」と命名し、観光コンテンツを開発

（注）本サバイバルゲームは、決められたエリアでエアガンを使用しフィールドゲームを楽しむもの

### 効果

平成27年：2回実施35名  
平成28年：4回実施85名  
平成29年：2回実施90名の参加

その他数名単位でサバイバルゲームを楽しむ目的で島を訪れる方が多数いる。

島内サバイバルゲーム愛好者との人的交流や、オフシーズンの観光資源の1つとして楽しまれている。



フィールドの全景  
（出典）新島スポーツサバイバルゲーム部



島の代表的な観光スポット 羽伏浦海岸  
（出典）新島村

# 島と大学との連携の取組例

## 域学連携地域づくり：長崎県対馬市対馬島（人口：31,301人）

### 取組



対馬全体を国内外複数の大学のサテライトキャンパスに見立て、フィールドキャンパス「対馬学舎」として地域と大学の連携を展開。対馬の新たな価値創出と持続可能な島づくりを行う。

地域と大学のニーズに  
応えるプログラム

- ①島に飛び込むきっかけづくり！  
短期実践合宿「島おこし実践塾」
- ②中長期間、現場の実践に学ぶ！  
学生実習「現場学」
- ③対馬の課題等を研究！  
「学術研究奨励補助」
- ④研究や実践活動成果を対馬に還元！  
「対馬学フォーラム」

### 効果

#### ◎交流実績：

- 多数の大学、学生が来訪。平成26年度から平成28年度の3カ年、学生1,720名、教員450名、延滞在人数8,700人が来島・滞在

#### ◎波及効果：

- 若者の感性や行動力、大学の専門性を活かして、住民だけではできないようなイベント・プロジェクトを学生がサポート
- 対馬ファンとして複数の学生が経済支援（特産品の購入、ふるさと納税等）
- リピーターとして多数の学生が再来島（研究、教育実習、旅行等）
- UIターン者として対馬に7人移住



九州大学法学部の学生らによる集落ワークショップ  
（出典）対馬市



京都大学大学院生と婦人グループによる配食サービスの開始  
（出典）対馬市

# 島と大学との連携の取組例

## アイランドキャンパスの推進：鹿児島県内離島地域（人口：159,486人）

### 取組

県内の離島を舞台に、離島の地域振興に役立つ学外活動に取り組む大学・短大等高等教育機関の教官及び学生に対し、旅費等活動に係る経費を県離島振興協議会が支援

【H29年度実績】

実施数：4校4件（16校20件応募）

（取組の例）※平成28年度実施  
～「しまごはん」を通じた奄美大島・龍郷町の観光振興～

現地調査を実施し、龍郷町の各集落・各家庭に伝わる様々な郷土料理を発掘し、食をテーマとした観光ルートの提案を行った。

「食」に着目したこのプロジェクトでは、学生たちが龍郷町の各集落を周り、島の人々の話を聞きアンケートやインタビューを行い、島の食材で作った料理や食材を通じ、歴史や文化を学びながら、どう観光ルートに繋げていくかを模索した。

### 効果

（取組の例の効果）

- ①島の郷土料理、鶏飯に使うパパイヤについてマスコットキャラクターを作成し、PRのための意見や提案を行った。
- ②伝統的なイモ料理を手軽に調理できる工夫をし、レシピの提案を行った。
- ③豊作を祈願する伝統行事「種下ろし」などの実際の食文化に学生が触れ島の人々との交流をはかることができた。

※平成29年度には、学生が「龍郷町で食を味わう1泊2日、予算5000円でのツアー」を企画し、発表することで、観光客増加に繋がる若い世代が「旅」に求めるものを知ることが出来た。

# 親子・子ども向け島の生活体験の取組例

子育て体験ツアー：島根県海士町中ノ島（人口：2,353人）  
あまちょう

## 取組

島根県外の親子を海士町へ連れて行き、島での生活を体験してもらい島への移住や離島留学につなげていくもの

### 【体験内容】

- ① 保育-小学校-中学校-高校の連携教育を知る
- ② 森のようちえん「お山の教室」を体験
- ③ 島で暮らす子育て世代との交流
- ④ 島の人と一緒にごはんづくり
- ⑤ 海と島の幸を味わい民謡を楽しむ
- ⑥ 海や山で普段の暮らし・遊び・文化に触れる

## 効果

【H28年度ツアー実施実績】  
参加者：大人6名、子供5名

参加した大人4名がアンケート調査で移住を検討していると回答



森のようちえん「お山の教室」を体験中  
(出典) しまね暮らし体験プログラム事業



島のIターン者との交流（仕事と暮らしを知るトークセッション）  
(出典) しまね暮らし体験プログラム事業

# 親子・子ども向けの島での生活体験の取組例

島の自然を生かした体験型修学旅行：広島県大崎上島町大崎上島（人口：7,915人）

## 取組

都市部の中学校、高校が実施する修学旅行を民泊という形式で島に受け入れ、自然環境を生かした様々な体験メニューを実施

シーカヤックや伝統行事「權伝馬」への乗船体験をはじめ、民泊家庭では、釣り、農園等での植付・収穫、朝夕食の準備などを体験

平成23年に大崎上島海生体験交流協議会を設立。地道なプロモーション活動と、民泊家庭の受入や体験メニュー等の充実により、学校間の口コミで評判が広がり、受入数が増加

## 効果

受入校数が、平成25年度（初年度）5校から、平成28年度17校（生徒数約2,500名）に拡大。交流人口の増加や地元産業の活性化等に大きく貢献

平成29年度には、修学旅行で島を訪れていた大阪府出身の生徒が2名、広島県立大崎海星高等学校に入学

町のPR活動の一環としても機能。生徒や学校が媒体となり、「大崎上島町」の名が全国各地へ拡散



修学旅行生を見送る民泊家庭の人々  
（出典）大崎上島町



体験メニューのひとつであるシーカヤック  
（出典）大崎上島町

# 離島留学の取組例

あわしま うら むら

## しおかぜ留学：新潟県粟島浦村粟島（人口：370人）

### 取組

他の地域に住む子供達が寄宿舎で共同生活をおくりながら、島の学校に通う。

児童生徒職員が「やれかか（地域の祭り）」等の地域行事へ参加

馬の世話や馬との生活を通じ、命のつながりを学ぶ教育に取り組む

地域での職場体験、調査・学習、島外の専門家による豊富な出前授業、大学生との交流の実施



粟島小学校での授業風景より一人や二人での授業がなくなった。  
（出典）粟島浦村

### 効果

児童・生徒数の増  
平成24年度：11名  
平成28年度：24名(うち離島留学11名)

学校が地域の伝統文化の継承、交流の拠点となっており、地域活性化に結びつく

小規模校でのマンツーマン指導により、島そして日本の未来を担う人材の育成

元、現留学生の家族による移住に繋がるケースが出てきた（平成29年度：1家族）



高齢者の生き生き体操  
地域の高齢者とも交流ができ地域が賑やかに。  
（出典）粟島浦村

# 離島留学の取組例

## 十島村山海留学：鹿児島県としま十島村（人口：756人）

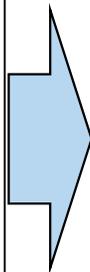
### 取組

留学生は里親(寄宿舍含む)の家庭で暮らし、島内の小・中学校に通学

留学前に留学予定地への下見を行い、里親等との顔合わせを行うことで、留学後のミスマッチを防止

H28年度には学校、教育委員会だけでなく島内での支援についても強化していくため各島に山海留学支援組織を立ち上げ

留学生の地元行事盆踊り等への参加



### 効果

平成3年から実施している小中学校への山海留学制度では、これまでに274人の受け入れを行った。

極小規模校ならではのマンツーマン授業による学力の向上

島の生徒にとって、同年代の留学生との出会いが高校進学など様々な情報交換の機会になり意識向上に繋がる

地域との連携によるコミュニティの活性化に貢献



平島宮鶴女（夏祭り）への参加  
（出典）十島村



追い込み漁の体験  
（出典）十島村

# 働き方改革の離島での実践の取組例

おき どうご  
サテライトオフィス／テレワークセンターの活用：島根県隠岐の島町島後（人口：14,608人）

## 取組

離島のハンデ（物流に左右される）を克服するため  
今まで島内に不十分であったITを活用する事業  
を展開

県内でテレワーク事業を実施している事業者の島  
内へのサテライトオフィス設置にあたり、施設設備  
費・人件費等の経費を県・町が幅広く支援

同様の形態でテレワーク事業を行っている長野県  
塩尻市振興公社等と連携して業務を実施すること  
により、双方で仕事をシェアする等の繁閑調整を  
行い、継続的な業務運営を実現

ワーカーへのスキルアップセミナーを実施

## 効果

都市部の仕事を島民27名（登録ワーカー）が  
受注

テレワーク事業運営者2名が常駐

子育て中や介護、転勤族の妻、病気療養中等、  
フルタイムで働く事が困難な人材等でも働くこと  
が可能

セミナーにより、就業者本人の自信にも繋がり、  
対応できる案件が増加

拠点に集まることで、UIターン者の支援や情報  
交換の場などの新たなコミュニティの醸成にも  
繋がる。



作業中のテレワーカーの皆さん  
【出典】(有)Willさんいん隠岐オフィス



ワーカー向けスキルアップセミナー  
【出典】(有)Willさんいん隠岐オフィス

# 働き方改革の離島での実践の取組例

い き し  
サテライトオフィス／テレワークセンターの活用：長崎県壱岐市壱岐島（人口：26,750人）

## 取組

国指定特別史跡「原の辻遺跡」内の倉庫を活用し、サテライトオフィス／テレワークセンターを構築

民間企業が本社機能の一部をテレワークで行うとともに、島民及び企業がクラウドソーシング等のテレワークを活用

若い人材のU I ターンを促進するため、島外 I T 企業での O J T によるプログラマー養成を実施（2年間で6名養成予定）

壱岐から「テレワーケーション（テレワーク＋バケーション）」という新しい働き方を提案するため、企業と連携して商品化を検討

## 効果

島外の企業がサテライトオフィスを活用（3社15名）

- ・島民10名の雇用創出
- ・そのうちの1社が事業拡大に伴い、古民家を活用して壱岐拠点を開設
- ・さらに5社が活用予定

クラウドソーシングを活用し、主婦層及び高齢者を中心に島民23名が仕事を受注

オープン後5か月で1000名以上がテレワークセンターを利用（島外からも視察等で400名以上が訪問）



倉庫を改装したテレワークセンター  
（出典）壱岐市



子どもと一緒にWEBライティング  
（出典）壱岐市